

＜全体分析＞

試験時間 75分

解答形式

記述、選択、字数指定の論述、計算問題が出題された。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化）

出題の特徴や昨年との変更点

昨年は論述問題の総字数が130字であったが、今年は50字程度の論述問題が6題出題され、総字数が290字と増加した。計算問題は、昨年の8問から2問へと減少した。

その他トピックス

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔1〕	記述 選択 論述	固体地球	地学基礎 地学	重力と地球の内部構造について出題された。問3では、ジオイドの形状の理由、問4では、日本海溝付近でのフリーエア異常の理由の説明が求められており、正確な理解が必要であった。	標準
〔2〕	記述 選択 論述	地球の歴史	地学基礎 地学	風化作用と流水の作用について出題された。問5では、粒径と流速の関係の図の読み取りについて字数に合わせて説明する必要があった。	標準
〔3〕	記述 選択 論述	大気・海洋	地学基礎 地学	大気の運動と海水の運動について出題された。問2は、問題文をよく読み解答を選択することに注意が必要であった。	標準
〔4〕	記述 計算	宇宙	地学基礎 地学	HR図、恒星の性質、太陽について出題された。問4はやや煩雑な計算問題であり、丁寧に計算する必要があった。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

地学のほぼ全範囲から出題されており、基本的な内容を問うものが多く、正確な知識を必要とする問題も出題される。「地学基礎」および「地学」の教科書をよく読み、地学現象を根本から理解する必要がある。宇宙分野では、煩雑な計算問題が出題されることも多いので、過去問などで練習しておくこと。また、論述問題も頻出であり、今年は見られなかったが、100字程度の字数が多い論述問題が出題されることもあるので、添削指導を受けるなどの対策を行うことが必要である。